

- ★ 野島海岸におけるアマモ場再生の取り組み(成功事例紹介) 1・2
- ★ 県立海洋科学高校の藻場再生への取り組み……………2
- ★ 令和4年度上半期の主な事業……………3
- ★ トピックス『荒崎海岸クリーンフェスタ2022初夏』開催3
- ★ トピックス 富浦公園前浜清掃を実施……………3
- ★ 新理事長に小澤紳一郎氏……………4
- ★ 令和4年度の役員及び評議員・令和3年度決算の概要 4

一般財団法人 横須賀西部水産振興事業団
〒240-0101 横須賀市長坂2-2-2 ☎046-857-6596
URL <https://www.yokosuka-seibusuisan.org>

「西部水産振興だより」のバックナンバーや「小田和湾の藻場環境」のパンフレットがダウンロードできます。ぜひご覧ください!



野島海岸におけるアマモ場再生の取り組み(成功事例紹介)

東京湾では1950~70年代に進んだ埋立てと水質汚濁によって、かつて広大にあったアマモ場のほとんどが失われ、1990年代半ばの横浜市沿岸のアマモは野島海岸に数株が残るのみでした(写真1)。

2000年に市民団体によるアマモの移植活動が野島海岸で静かに始まりましたが、この小さな取り組みを大きく育てたのが2003~13年に神奈川県水産技術センターが主導した市民協働のアマモ場再生事業です。「金沢八景-東京湾アマモ場再生会議」という中間支援組織を立ち上げ、国県市をはじめ、横浜市漁協、地元の小学校から大学、民間企業といった幅広いセクターが参画する大きな取り組みになりました(写真2)。



1 横浜市沿岸に残存したアマモ(2000.10.16)



2 アマモ移植イベント【海の公園】(2008.5.6)

まず県が地元産アマモの種子と苗を安定生産させ、種まきと苗移植によって数ヶ所に核となる藻場をつくりました。その数100㎡の藻場は2005年には実生で周囲に拡がりを見せ、核藻場がつながって数ヘクタール規模の帯状の群落となりました(写真3、4)。

成功要因は、事前の綿密な適地選定調査にあります。造成候補地の水深ごとに光量、水温、流れと底質を調べ、アマモが生育可能な場所を割り出しました。その結果、野島海岸の適地は水深0.4~1.2mのわずか80cm幅の水帯帯と分かり(図1)、そこへ集中的に種まきと移植を行ったのです。再生された藻場と事前調査によって描かれた適地は見事なまでに一致しています。



3 自律的な再生が始まった野島海岸のアマモ場(2005.5.24)



4 急速に拡大した野島海岸のアマモ場(2007.5.16)

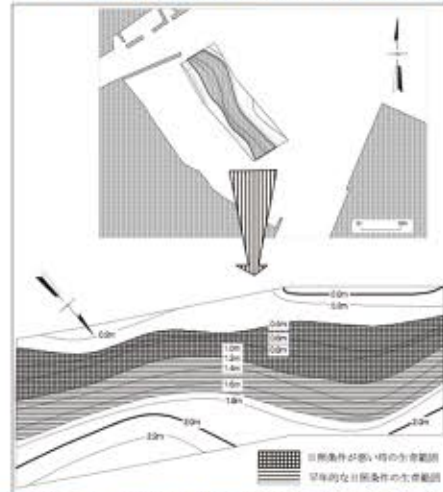


図1 事前調査によって描かれた野島海岸のアマモ場再生適地

野島海岸におけるアマモ場再生の取り組み(成功事例紹介)

再生藻場では2004年から毎年アオリイカやコウイカが産卵し(写真5)、メバルやカワハギ類などの水産有用種が育ち、2006~17年に毎月欠かさず続けられた158回のひき網調査では、魚類だけで56科154種、17万尾以上が採集されました(写真6、7)。



5 アマモに産みつけられたコウイカの卵(2021.6.26)

またこの間には、第25回全国豊かな海づくり神奈川県大会での天皇皇后両陛下によるアマモのお手渡し、松沢神奈川県知事(当時)によるアマモ苗の移植(写真2)、全国アマモサミットの発足などがあり、事業は全国的に知られました。



6 アマモ場のひき網生物調査(2015.7.4)

特に注目されるのは、アマモ神事の復活です。鎌倉時代に創建された金沢八景の瀬戸神社にはアマモを使った神事がありましたが、環境悪化による地先アマモ場の消滅で伝承が途絶していました。そこにアマモ場が再生された



7 ひき網で採れたメバルやアオタナゴなど(2015.7.4)

2011年、80年ぶりに神事が復活したのです(写真8)。アマモ場の消滅は生態系や生物多様性のみならず、伝統文化の存続をも危うくしましたが、再生によって導かれた神事の復活は、地域住民の心を再び地元の海へと結びつけました。



8 復活したアマモ神事【横浜市瀬戸神社地先】(2011.7.3)

近年はアマモ場がCO₂を吸収・固定するブルーカーボンが注目され、2014年に横浜市は全国に先駆けてブルーカーボン・オフセット制度を導入しました。まず、再生されたアマモ場が吸収・削減したCO₂が取引可能なクレジットとして認証されます。クレジットはCO₂を排出する企業が排出分を相殺するために購入し、代金はアマモ場を再生させた漁協や市民団体が受け取ります。こうした後押しもあって、横浜では経済的にも自立した市民主導型の取り組みが、横浜市漁協とも連携して続けられているのです(写真9、10)。



9 漁港におけるアマモ種子選別イベント【横浜市柴漁港】(2022.7.30)



10 今年生産されたアマモの種子(2022.7.30)



県立海洋科学高校の藻場再生への取り組み

6月18日(土)小雨の中、県立海洋科学高校の先生と生徒6名が佐島漁港内にアマモの苗を約8㎡植栽しました。同校長井海洋実習場屋上の水槽で育てられた苗で、齊田由来の株を増やしています。また、苗の成長や食害を記録するため、水中用タイムラプスカメラ(協力: 髙マリン・ワーク・ジャパン)も設置しました。

「藻場再生への取り組み」は、本紙48号「神奈川県立海洋科学高校～地元水産業との取り組み～」でも詳しく紹介しています。(事業団ホームページからご覧になれます)

テレビ放映決定
9月25日(日) 22時~

テレビ朝日「発信!ミライクリエーター」で、海洋科学高校の「(仮称)三浦の海を守る取り組み」が放映されます。

※都合により番組の変更がありますのでご了承ください。



干潮時

令和4年度 上半期の主な事業

当事業団は地域活動の支援、水産振興を事業の柱として、
種苗放流や研修会開催などの事業を行っています。
本年度前半の主な事業活動を紹介いたします。

トラフグ・マダイ・ヒラメの種苗放流を実施しました。

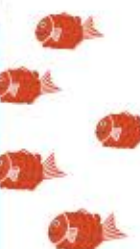
5月17日(火)

トラフグ(平均全長48mm) 10,000尾を小田和湾に放流しました。



7月12日(火)

マダイ(平均全長69mm) 当事業団8,000尾と(公財)神奈川県栽培漁業協会分を合わせて合計21,000尾を佐島漁港岸壁から放流しました。



7月19日(火)

ヒラメ(平均全長65mm) 当事業団8,500尾と(公財)神奈川県栽培漁業協会分、両漁協購入分を合わせて、合計32,500尾を井尻漁港岸壁と佐島漁港岸壁から放流しました。



7月5日(火)

神奈川県水産技術センターは、トラフグ(平均全長67mm) 4,000尾を齊田浜に放流しました。



『荒崎海岸クリーンフェスタ 2022初夏』開催

トピックス

富浦公園前海浜清掃を実施

6月12日(日) コロナ禍により中止になっていた「荒崎海岸クリーンフェスタ」が3年ぶりに開催されました。荒崎海岸なんやの浜の海岸清掃とヒラメ5,000尾を放流しました。次回は、10月9日(日) 9時~荒崎海岸なんやの浜 参加無料、当日現地集合、小雨決行・荒天中止 詳しくは、<http://www.wafa.jp> TEL 045-663-5688



7月29日(金) 長井中学校の生徒・先生57名と市職員16名、かながわ海岸美化財団と当事業団9名で富浦公園前海浜のごみ収集とアオサ清掃を実施しました。きれいな砂浜に蘇りました。



新理事長に小澤紳一郎氏

令和4年度は当事業団全役員の改選があり、新理事長に長井町漁業協同組合の組合長 小澤紳一郎氏が決まりました。前任の福本憲治氏は理事長として3期6年勤めていただきました。今後は副理事長として事業団の運営に携わっていただきます。



令和4年度の役員及び評議員

令和4年4月1日「一般財団法人横須賀西部水産振興事業団」は、9年目をスタートしました。正副理事長の交代と4名の役員に変更がありました。退任されたのは、理事の板戸淳氏と濱崎喜健氏、評議員の上之段功氏、監事の藤村幸彦氏です。

役員(理事10名、監事2名)名簿

令和4年6月23日(敬称略)

No.	役職名	氏名
1	理事長	小澤 紳一郎
2	副理事長	福本 憲治
3	専務理事	谷 英明
4	理事	今井 利為
5	理事	梶ヶ谷 泰宏
6	理事	武田 哲治
7	理事	長澤 毅
8	理事	新倉 繁
9	理事	山田 利一
10	理事	平野 敏幸
1	監事	内田 康之
2	監事	石渡 敏幸

※下線は新任

評議員(10名)名簿

令和4年6月15日(敬称略)

No.	役職名	氏名
1	評議員	石渡 修
2	評議員	小杉 邦洋
3	評議員	清水 詢道
4	評議員	砂村 芳行
5	評議員	鈴木 秀雄
6	評議員	田中 達夫
7	評議員	鈴木 直樹
8	評議員	河西 勉
9	評議員	原田 洋治
10	評議員	樋爪 由幸

※下線は新任

令和3年度 決算の概要

令和4年6月15日に開催された令和4年度定時評議員会において、令和3年度の事業報告及び決算について承認されました。令和3年度の経常収入(利息)は5,097,272円、支出は事業費及び管理費を合計して18,822,392円であり、当期経常増減額は13,725,120円の減となり、その減を基本財産の取崩及び繰越金支出により収支のバランスを取りました。この結果、正味財産期末残高は2年度末の残高より現15,008,492円減少し、450,455,323円となりました。決算の概要は次のとおりです。

決算の概要 (令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

I 一般正味財産増減の部

1. 経常増減の部

(1) 経常収益

① 基本財産運用益	5,050,921円
② 雑収入	46,351円
経常収益計	5,097,272円

(2) 経常費用

① 環境保全事業 海岸・漁港清掃助成金など	2,506,151円
② 調査研究及び保護増進事業 小田和湾漁場分布調査費 種苗購入費など	7,092,782円
③ 研修事業 水中ドローンの操作体験他	937,212円
④ 広報事業 西部水産振興だよりNo.47、No.48製作費	786,736円
⑤ 経営安定事業 漁業協同組合に対する経営資金等の助成金 事業費計	6,000,000円 17,322,881円

⑥ 管理費 1,499,511円

役員会議出席報酬
関係団体年会費等負担金など
※人件費は各事業に配分し支出している。

経常費用計	18,822,392円
当期経常増減額	△13,725,120円

2. 経常外増減の部

(1) 経常外収益	12,000,000円
(2) 経常外費用	0円
当期経常外増減額	12,000,000円
当期一般正味財産増減額	△1,725,120円
一般正味財産期首残高	32,027,652円
一般正味財産期末残高	30,302,532円

II 指定正味財産増減の部

当期指定正味財産増減の部	△13,283,372円
指定正味財産期首残高	433,436,163円
指定正味財産期末残高	420,152,791円

III 正味財産期末残高

正味財産期末残高	450,455,323円
----------	--------------